

- 問1 「下剋上」の風潮によって、室町時代の地方政治において生じた変化として正しいものはどれですか。 (2018年 愛知県公立入試 類似)
- 幕府が御成敗式目を制定し、裁判の公平性を高めることで農民の不満を解消した。
 - 北条氏が執権として幕府の実権を握り、独自の法律を定めて武士を統制した。
 - 守護代や国人が、実力で守護大名に代わって領国を支配する戦国大名が現れた。
 - 白河上皇が位を譲った後も政治を行うことで、摂関家から実権を取り戻した。
- 問2 室町時代、近畿地方などの先進地域を中心に、農民たちが自衛や村の運営のために結成した自治組織を何といいますか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- 株仲間
 - 五人組
 - 惣
 - 座
- 問3 1467年に始まった応仁の乱は、京都を主な戦場として11年近く続きました。この乱の直接的な原因と、その後の社会の変化について述べた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 奈良県公立入試 類似)
- 南朝と北朝の二つの朝廷が対立したことが原因となり、足利義満がこれを統一することで、幕府による全国支配が完成した。
 - 室町幕府の8代将軍、足利義政の後継者争いや有力な守護大名の対立が原因となり、実力のある者が上の者を倒す「下剋上」の風潮が強まった。
 - 織田信長が足利義昭を追放したことが原因となり、室町幕府が滅亡し、近世に向けた城下町の整備が進められた。
 - 元の襲来（元寇）による恩賞の不満が武士の間で高まったことが原因となり、鎌倉幕府が滅亡して天皇による親政が始まった。
- 問4 室町時代の日明貿易（勘合貿易）の形式と、その背景にある国際関係の説明として最も適切なものはどれですか。 (2018年 福岡県公立入試 類似)
- 明からの輸入制限をかけるために、すべての貿易を長崎の出島に限定した
 - 日本が明の皇帝に貢ぎ物を届け、その返礼品を受け取る朝貢貿易の形をとった
 - 日本と明が対等な立場を強調するため、勘合符に代わり金銀を交換基準とした
 - 倭寇を鎮圧するために、幕府が明の軍隊を日本国内に駐留させることを認めた
- 問5 足利尊氏が征夷大將軍となり幕府を開いた14世紀ごろ、日本の周辺海域で活動が活発化した集団について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 沖縄県公立入試 類似)
- 天下の台所と呼ばれた大阪を拠点に、全国の物資を管理した。
 - 勘合貿易を独占し、幕府の許可を得て朱印船を派遣した。
 - 元軍が日本に侵攻した際、対馬や壱岐で抵抗した防人が組織された。
 - 朝鮮半島や中国沿岸で海賊活動や密貿易を行った倭寇が活動した。
- 問6 14世紀末に明の皇帝から「日本国王」の称号を得て、それまで途絶えていた中国との正式な国交を回復させ、日明貿易（勘合貿易）を開始した室町幕府の第三代将軍は誰か、名称を答えなさい。 (2018年 岐阜県公立入試 類似)
- 足利尊氏
 - 足利義満
 - 足利義昭
 - 足利義政
- 問7 鎌倉時代から室町時代にかけて、和人とアイヌの人々との間で行われた交易や当時の社会状況について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- 西日本を中心に、干害に強い大唐米の栽培や二毛作が広がり、用水路管理のための組織化も進んだ。
 - 交易の対価として日本からは大量の銀が輸出され、アイヌの人々を通じて中国の特産品が大量に輸入された。
 - アイヌの人々との交易を独占するため、幕府は全国に五人組を組織して農民の行動を厳しく制限した。
 - アイヌの人々との交易によって、鮭や昆布、毛皮などの北方の産品が和人を通じて京都などの都市へ運ばれた。
- 問8 14世紀末から16世紀半ばにかけての明（中国）側の記録によると、明へ朝貢を行った回数はシャム（73回）や朝鮮（30回）に比べて琉球王国が171回と極めて多いことが分かっています。この時期に琉球王国が行っていた貿易の実態について説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
- 東南アジアから輸入した銅銭をそのまま明へ輸出し、明から高級な漆器を大量に買い付けていた。
 - 明への朝貢回数は他国より制限されていたため、主に日本との直接取引だけに限定して貿易を行っていた。
 - 明へ日本産の漆器や刀剣を輸出し、その見返りとして明から大量の香木や香料を直接仕入れていた。
 - 明から陶磁器や銅銭を得て、それを東南アジアの香料や香木とともに日本などの周辺諸国へ転売していた。
- 問9 室町幕府において、細川・斯波・畠山の三家が交代で「管領」という役職に就いた理由や、その役割について説明したものとして最も適切なものを選択してください。 (2024年 滋賀県公立入試 類似)
- 天皇の補佐として朝廷の儀式を主導し、公家と武士の融和を図るため
 - 有力な守護大名の勢力を幕府の中核に取り込み、将軍を補佐して幕政を安定させるため
 - 地方で反乱を起こした守護大名を処断し、将軍の独裁権を強化するため
 - 東国の統治を目的として鎌倉に設置された機関を指揮・監督するため
- 問10 鎌倉時代において、後鳥羽上皇が幕府から政権を取り戻そうとして兵を挙げたものの敗北し、結果として幕府が朝廷の監視や西日本の統治を強化するために「六波羅探題」を設置する契機となった出来事を選びなさい。 (2017年 鳥取県公立入試 類似)
- 建武の新政
 - 承久の乱
 - 平将門の乱
 - 平治の乱
- 問11 室町時代、日明貿易（勘合貿易）を利用して中国の明に渡り、現地の技法を学んで日本独自の水墨画を大成させた禅僧は誰か答えなさい。 (2021年 高知県公立入試 類似)
- 運慶
 - 狩野永徳
 - 雪舟
 - 葛飾北斎
- 問12 足利義満によって始められた日明貿易で、「勘合」と呼ばれる札が用いられた理由として、当時の時代背景をふまえた最も適切な説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- 東アジアの海域で活動していた倭寇と、正規の貿易船を区別するため
 - 有力な守護大名が独自に行っていた私貿易を、幕府が完全に管理・独占するため
 - キリスト教の布教を目的とする宣教師の密航を阻止するため
 - 元寇による被害に対する賠償金の支払いを、明側に証明させるため
- 問13 足利義満が明との貿易において、「勘合（勘合符）」と呼ばれる証明書を使用することになった主な目的は何ですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- 日本国内の有力な大名や寺社が、独自に明と交易を行うことを許可するため
 - 幕府が認めた正式な貿易船と、当時海上で活動していた海賊（倭寇）を区別するため
 - 明から輸入する銅銭や生糸の価格を、あらかじめ一定に固定しておくため
 - 明の皇帝に対して、日本が対等な立場であることを証明する外交文書とするため